

二名・尺八入▼噺武蔵少式資能公一熊手旭嵐
▼綾の糸一入中村旭園▼(第二部) 古典琵琶の
手法による三章①序と平家琵琶と攻め②門徒
琵琶③盲僧琵琶一會主中村旭園・尺八、琴、十
七絃入▼秋風故郷山一藤巻旭彰、竹本旭将、
絃西川旭操、旭華、旭鳳、立方一▼天の羽衣
一伊藤旭揚、横野旭鳳、谷口旭孝、絃旭操、
旭華、旭宸、琴一▼義士の本懐一會主中村旭
園▼惠林寺炎上(贊助出演) 東京水藤五朗
・尺八入▼曲垣平九郎(同) 大阪山崎旭幸
▼荒津の舞一中村旭園外四名、琴一。

各流派琵琶合同演奏会

十一月八日(日)正午京都東山安井神社金比羅
宮會館、主催京都琵琶協会。川中島一山田明
嶺▼那須与市一佐々木祥子▼桜狩▼楊光子▼
禪師と正宗一桜井旭雷▼敦盛▼木下皇水▼馬
術の蒼一西川磯水▼広徳寺一山岡旭清▼白虎
隊一馬場鴨水▼真如の月一植村實水▼粟津ケ
原一矢吹旭美津▼楊貴妃(一來賓) 神戸滝沢
花水▼坂崎出羽守▼梅原旭瀟▼井伊大老▼楊
柳水▼木村重成(一來賓) 大阪中山鳳水▼衣
川一林旭朋▼城山一平井春嶺▼茨木一田中敷
水。超満員の盛会であった。

洲楓会琵琶演奏会

十一月十三日(金)夕五時東京日本橋第一証券
ホール、主催洲楓会本部(会長大館美江子女
史)、後援洲楓会後援会。重衡一富田洲寿・
絃真泉洲佳▼城山一岡田洲峰▼湖水乗切▼彼
ノ矢洲友▼横笛一山田洲鳳▼常陸丸一松崎洲
陵▼羅生門一荒川洲博▼棄児一桑名洲聖▼川
中島一稲垣洲玲▼茨木一荒川洲帆▼大柳公一
(來賓) 石坂鶴朋▼堅田落(同) 原島旭粧
外に詩吟十四題、尺八伴奏山崎竹峰。

民族芸能を守る会
十一月十九日(木)夕六時東京上野本牧亭。琵琶「福沢諭吉」一水藤五朗の外二絃琴、新内、地唄など七題。

邦楽琵琶まつり木原綾子演奏会

十一月二十三日(木)午前十一時東京日本橋東
京証券會館。會員十一曲の外山崎旭華、押田
旭野両女史をはじめゲスト出演十三曲。(次
号詳報)。

ラヂオ琵琶放送

十一月五日(木)午後三時十分NHK・FM。
「舞扇鶴ヶ岡」柴田旭堂、「源実朝」板谷旭
邑両女史放送。

転居

押川旭葉女史 東京都目黒区五本木二一
四九一五、三角方に転居。尚十二月下旬川崎
市中原区丸子通り一六六一ニシヤルム新丸
子六〇三号に移転の予定。

予告

- ：京都琵琶協会月例会 十二月六日(日)午後
二時會員楊嶽水氏宅(西宮市松園町一三ノ
一一)、例会のあと忘年会。
- ：義士祭に琵琶献奏 十二月十四日(月)午後
京都東山仁王門バス停前本妙寺、京都琵琶
協会有志協賛。
- ：義士祭に琵琶献奏 十二月十四日(月)午前
十時大阪吉祥寺、大阪琵琶同好会協賛。
- ：日本琵琶楽協会関西支部懇親旅行 十二
月十八日(金)から二泊三日山陰地方観光。
- ：柴田旭堂演奏会 一月十七日(日)神戸文

化會館中ホール。
○：新春琵琶名流演奏会 一月二十三日(出)正
午東京銀座ガスホール、主催日本琵琶楽協
会。(有料)

あ
き
が
と
あ
とうとう年末となり何彼と心忙が
しい毎日で、あと一と月で好むと好
まざるとに拘らず又一つ齡を重ねね
ばならぬ。いつまでも若くありたい
が、こればかりはどうにもならない。過去一
年を顧みても予定の1/10も出来なかったこ
と、我れながら慚愧に堪えぬ。琵琶界も日
を追って盛んになっていくのが戦前に較べ
ると未だ未だの感を覆うことが出来ない。男
女少青年の育成は目下の急務で先生たちは流
派を問わず全琵琶界の為此の点大いに力を
注いで欲しい。有名な先輩達が老齢化して次
ぎ次ぎとあの世の人となられるにつけても、
次代を擔う若い人々を養成して将来に備えな
ければ琵琶は滅びてしまう。本号は前身に続
き各地の催しものが多くてこれらの報道のた
め貴重有益な二、三の記事を翌月廻しにせざ
るを得ない結果となり御寄稿の方々に申し訳
なく思っている。悪くは御許し願いたい。●
来年正月特別号の年賀交礼は精々お早く、精
々多くお申し込み頂きたくお待ち申し上げる
●ではどうぞよいお年をお迎え下さい。

昭和五十六年十二月一日発行(非売品)
編集者 植村 真水
発行所 吹田市山田東一丁目三一 B六一四
電話 〇六(八七五)〇三二六番

琵琶 機関紙

京

絃

第三三〇号 京 絃 社

おんなの都 (四)

落合一誠



京都に都が定められてから、約三百年間
間つづいた貴族中心の時代が、ようやく終り
を告げようとしていた。

その頃藤原多子(おおいこ)が入内して近
衛天皇の后となった。多子の父伊直(これみ
ち)は、娘の侍女を求めて、全国に指令して
美女を集めさせた。そして千人の美女の中か
らただ一人選ばれて多子の侍女となったのが
常盤であった。

しかし、ただ美しいというだけで、格別技
芸にすぐれていた訳でもなかった常盤御前が、
何故歴史上にその名を留めたのか? それは
源九郎義経の生母であったからである。

と同時に、宿命のライバル源平二氏の代表
者、平清盛と源頼朝という二人の大将に愛さ
れて、まことに数奇な運命を送った。

古来、美女寵姫の数は多いけれども、敵対
する大将の間を手まりの如く移って寵愛され

た女人はそう多くはなからう。

そのために常盤は、節操のない女とけなさ
れ、ただ美しいばかりで他には何の取り柄も
ない女性であったと説く人もいる。けれど常
盤には、彼女なりの云い分があった筈である。

十三歳で宮廷の雑仕(ぞうし)となった常
盤は、あまりの美しさに忽ち人間的となつて
しまった。とは云え、身分の高い貴族たち
の恋の相手となるにはいささか役不足、雑仕
とは、宮廷に仕える女官の中で、一番身分の
低い者であるに過ぎなかった。

ところが、常盤の艶姿(あですがた)に思
いを焦がした二人の武人がいた。一人は左馬
頭源義朝、今一人は安芸守平清盛、どちらも
源平二氏を代表する武将である。武骨一点張
りの義朝とは対照的に、清盛は公卿に近いよ
うな教養を積み、世渡りが上手であった。

しかし、男女の間というのは分らないもの
で、一見みやびで物腰のやわらかい清盛より、

朴訥で何のかけひきもない義朝の男らしさに
引かれた常盤は、年僅か十四歳にして義朝
の寵女(おもいめ)となった。
喜んだ義朝は、紫野に館を作って常盤を住
ませ、正室は云うに及ばず、それまで関係
のあった女性たち総てを振り捨てて、ひたす
ら常盤との愛の明け暮れに感溺するようにな
った。その頃清盛は三十六歳、義朝は三十一
歳であった。

ところで、義朝と正室由良御前との間に頼
朝という嫡男がもうけられていて、何れは義
朝の後を継いで源氏の棟梁となる筈であった。
棟梁とは全国に数多い源氏たちの総本家の総
領のことで、全源氏の象徴、冢家長というこ
とである。だが頼朝は、義朝の嫡男ではある
が、多くの兄妹たちの最年長者という訳では
なかった。というのは、正室以外の女性との
間に既に一人前になっている源太義平や、そ
の次に当たる朝長などを父がもうけていたた
めで、この他義朝の子供の数は正確には分か
らないほど沢山あったようである。

だから、常盤は義朝をめぐる女性たちの一
人というに過ぎないが、既に三十歳を越えた
義朝は、うら若い少女常盤を掌中の珠といつ
くしんで、片時も手放すまいとした。そのた
め紫野の館が義朝の本邸の如くになり、怒つ
た正室由良御前は元來氣位の高い女性で、遂
に熱田の実家へ戻ってしまった。由良御前の
生んだ嫡男頼朝は、この時以来、父を奪った
憎い女と深く常盤をうらんだのであるが、そ

それが後年、常盤の生んだ義経との間に不和の溝を掘る原因となった。

当時は貴族も武士も、味方が多いほど勢力が強く、最大の味方として自分の子孫を増やせばならず、多くの女性たちに子供を産ませることは、悪習であるより寧ろ権力者の一つの任務となっていた。

そして、常盤御前は義朝の子を次ぎ次ぎにはらんでいった。



菅原道真 (下)

ばくすい

藤原氏の讒言は効を奏し、十七歳の醍醐天皇はこの讒言を信用され、延喜元年正月二十五日、右大臣菅原道真は大宰権帥におとされ、その子四人、親友数人もそれぞれ処分の上、京から追放された。大宰権帥とは、表面的には九州大宰府の長官は帥で、権帥は副長官格であるが、右大臣からの格下げとしては想像もつかぬ事、九州の副総督とは名ばかりで、実際は罪人として囚禁同様の生活である。

道真の冢には梅の木と竹が植えてあった。道真はこれが大変好きで、これによって精神を長養していたが、今や流されるに当ってその梅に名残りを惜しんで詠んだ歌が！。

東風(こち)吹かば匂いおこせよ梅の花
あるじ無しとて春な忘れそ。

流されるのは道真一人だけではなく、その子大宇頭高視(たかかみ)は土佐へ、式部重景行(かげつら)は駿河へ、右衛門尉景茂は飛弾へ、秀才淳茂(あつしげ)は播磨へ、それぞれ分散しなければならなかった。

父子、一時に五処に離る
口、言ふ能はず、眼中は血なり

俯仰す、天神と地祇と
東行、西行、雲砂々
二月三日、日遅々。

この詩は、それ故に作られたものである。途中、明石まで来た時、駅長は変り果てた道真の姿を見て吃驚した。曾て讃岐守として住復する道真を見ていたし、その後、右大臣に栄達の噂も聞いていたのに、今囚人として護送されて来たのだから、動転して驚き悲しんだのは無理もない。道真は駅長に「駅長驚くなかれ時の変改を、一栄一落、是れ春秋」。大宰府へ着いてからは謹慎して一步も門外に出ない。

都府楼は、僅かに瓦の色を看
観音寺は、只鐘声を聴く、(中略)

此の地、身に検繫無しといえども、
何すれぞ寸歩も、門を出でて行かん。

このような詩を段々見てゆくと、その住宅は古い朽廃の冢で屋根は不完全、雨が降れば着物が濡れる、台所も物資不足で炊炊きも絶え勝ちのため釜の中にはボイフラが湧き、縁

側には蛙がうるさい。胃が悪いので石を焼いて温めるが一向に効果(ききめ)が無い。

心寒ければ、雨も亦寒く
眠らざれば、夜も短かからず。

無実の罪は必ず晴れる時が来るに違いない、と確信し、忠義の心は少しも動揺しなかった。

去年の今夜、清涼に侍し、
秋思の詩篇、独り賜を断つ
恩賜の御衣、今此に在り、
捧持して毎日、余香を拜す。

清涼は、宮中の清涼殿、去年の今夜は、清涼殿に於て天皇の出された「秋思」という題で作詩したのだが、今年の今夜は遠く九州に在って独り寂しく憂に沈んでいる。然し天皇から賜った御衣は今もここにあつて、毎日これを押し頂いて御恵みに感謝している、という意味で、この詩に少しも恨みの感情がない。事実無根の罪は、身の不幸として歎くが、天皇を恨む事は毛頭無いのが道真の偉い所で、昔から忠臣の典型とし、国民の鑑(かがみ)として遂に神として祭られるに至った。延喜元年から同三年の春まで、同年二月二十五日逝去、五十九歳であった。

無実の罪が明らかになつた延長元年右大臣に戻され、次いで太政大臣を贈られ、やがて神に祭られたのである。京都北野天満宮、九州太宰府天満宮、その他各地に祀られる「天神様」はこの菅原道真公を祭つたものである。

四絃漫筆

島津天嶺



田二つのプログラム

手許に二つのプログラムがある。ひとつは十月二十五日大阪で開かれた大和流光椽会主催。琵琶全国大会のプロ。山崎光椽先生のご挨拶から見ると全国大会は初めてのように、山崎先生の琵琶二十年の成果を世に問う演奏会。今ひとつは十一月八日福岡市で催される中村旭園教授五十年記念演奏会のもの、この方は中村先生が少女時代からの自己の修練弘道の記念として開かれるもので、特に第二部では先生と有縁の全国各地の先生方が出演され、他に水藤、山崎旭萃の両先生が、それぞれ恵林寺炎上と曲垣平九郎を演奏されることになつていて、当地方では滅多に聞けない豪華な番組である。

この二つのプログラムは考えて見れば全く対照的なものである。即ちひとつは私もその振興を願っている琵琶という新しい琵琶楽の会であり、ひとつは昔風——といっても明治以後のことであるが——の琵琶本来の物語り的な出し物を当代の名人連が演奏されるからである。

本誌前月号のあとがき欄に植村先生が述べられておられるように、琵琶は「語りもの」である。従つて琵琶歌は叙事詩であり、叙事となれば事の発端から経過、終結までをできるだけ詳細に、しかも美しい言葉で綴らねばならない。否美しい言葉で綴りあげたものが琵琶歌であり、それを語るのが琵琶楽であった。それが最近の琵琶演奏会では殆んど全曲を聞くことができなくなつたので、全曲演奏を望む方があることも植村先生の御指摘の通りである。

他面、気忙しい世相から私が前に本誌で述べたように、琵琶的な琵琶楽を望む人も多きことも事実である。

このようなことから多分この二つの会ともに大盛會であり、又あつたであらうと思う。ひとつは新しい琵琶楽として、今ひとつは本格的な琵琶楽として何れもその真価を世に示すものであるからである。

それはそれとして、ここでひとつ提案がある。それは、古典的な琵琶と琵琶吟の琵琶を、同じ先生が同時に行うことはできぬかということである。山崎先生や水藤先生のような著名な方々が、各々長短二曲を演奏して頂くような演奏会は開けないものか。このような演奏会であれば多数の琵琶愛好家を動員できるのではなからうか。

更に夢をふくらますならば各流派より最高峰の先生に出て頂いて、前記のように長短二曲を演奏する型式の演奏会を開催して、琵琶

琵琶のよさを大衆に知らせ、又琵琶を歌つて見たいという気持ちで聴衆に起させることができないうものか。そして若し多数の聴衆を集めることができれば案外興業としても成り立つかも知れないということである。

こんな発想は私のような芸能界について素人だから出ることかも知れないが、琵琶楽を振興するためには流派の垣を乗り越えて、現代の名人方に一肌脱いで頂くことが必要のように私は感じている。そしてそのことは決して諸先生方にとつても不利益なことにはならないと思つている。



五絃閑話

水藤五朗

遺稿集

このところ休筆が続きました。それにはいろいろな理由がありますが、その中の二、三を記させていただきます。四絃漫筆が連載されはじめましたので、五絃の方も、そうそう怠惰でいるわけにはゆかなくなつたと云うのがその本音でもあります。

私はずさわります錦琵琶は、明年、創成五十五周年を迎えることになりました。こう

記すと、斯道に極めて詳しい人は、オヤ!! と思うかも知れません。それもその筈で、錦琵琶が創成されたのは、大正末年、即ち、昭和元年であります。錦心流機関誌「水声」昭和二年には、錦心流錦琵琶、水藤錦樓と大きく広告があり、演奏会のプログラムにもそのような表示がついていて、既に、錦琵琶の名が多くの人々の間に流布していたことが察せられるのです。そして、この記述の本の他、昭和元年に錦琵琶が創成されたのを裏付ける資料は数多くあり、客観的に云えば、錦琵琶は既に五十五周年を迎えているのであります。

その資料とは我が国が紀元二千六百年の政治的年号に酔い乍ら、反面、戦争への暗い道に迷いかゝった昭和十五年の四月二十八日、日比谷公会堂で、錦琵琶創成十五周年記念大会として開催された演奏会のプログラムです。多くの新しい試みをもり込んだその記念の大会を「私の生涯に忘れ得ぬものでございました」と主催者である母は自叙伝の中でこう記しています。

そして、戦争、敗戦、戦後の混乱と続いて十五年の歳月が流れて、昭和三十年、今は姿を無くした上野・松坂ホールで、創成三十周年記念大会が行われました。

こうみてくると、錦琵琶の昭和元年創成は周知のことになって、当事者も、そうそう変えられない事柄になってしまったのでした。が、しかしであります、昭和四十二年に、創

成四十周年として銀座ガスホールで記念の会を開催した為、このあたりで、話がやゝこしくなってしまうました。本来なら、昭和四十年にそれをすべきでしたが、二年遅くそれを行なったのです。その理由は、永田錦心師の没した昭和二年十月三十日迄は考慮に入れず、それから後を計算しよう、母と私が相談したからであります。判り易く云えば、錦心師現存中は、お産で云う妊娠期間であるとしたわけです。そのことが正しかったかどうかは別として、錦心師の下では、やはり錦心流そのものであった母でしたから、そのような私の提案に同意を示したのであります。そして来年は、五十五周年となることになったわけでありました。そこで、この五十五周年を記念して、私なりに出来ることはないかと、考えをめぐらしてきた訳です。そして幾つかの計画を立てました。その一つが、母錦樓遺稿集と、歌詞集「錦琵琶名曲選」の作成でありました。

母は筆まめな人で、戦前は「佐久良」、戦後は「随報」と題して会報を作っていました。今日、八十号を数えるその会報の紙面や、斯界で発行されたいろいろな新聞・雑誌に、多くの随筆並びに和歌・俳句を残しています。そこで、これ等をまとめて一冊の本にしようと思ったのです。

この思いにかられた直接の動機は、故吉村岳城師の遺稿集「吉村岳城想華集」を手にしたからであります。我が家で、母の蔵書が

山積みされている一角から、ほこりにまみれたこの一冊を手にして、私は今更乍ら、岳城師の偉大さに感動しました。漢詩、和歌、俳句、琵琶歌、そして随筆と、文字の全ての分野にわたる師の作品と、その見識の深さに接して、多くの人が、岳城、岳城と讃えることが判りました。その芸の秀れていることは、コロンビアレコードに収録されている「川中島」の演奏からもよく判ります。そして、この本は、師の演奏レコードと共に、私の書棚に重味をそえるものとなりました。

昭和三十四年五月二十七日の記述になる伊藤岳英氏の「あとがき」がこの書物の末頁を飾っていますが、岳城師の高弟であった岳英氏、即ち詩吟家、伊藤長四郎師の、それはこの書を出版し得たことへの喜びの言葉であり、又、感謝のそれでもありました。私は、岳城師の筆述作品に心を打たれたと同様、この一書を世に送り、かく残し得た岳英師を始めとする多くの人々に敬服したのであります。

母は、岳城師のように、漢詩を作ることはありませんし、専門の方々から見れば、拙い短歌や、俳句の作法でありました。が、意外とこの拙ない母の短歌と、俳句を認める人々がいらつしやるのです。私自身、そのいくつかを良く出来ていると思います。そこで、これらをまとめることを決意しました。その吉村岳城師も、その遺稿集をまとめた岳英師も、共に名人と称せられる人々でした。それ等の先人を使う時、なんとしても、母の一書を、と思ったのであります。(この項つづく)

藤巻旭鴻氏の栄誉

日本琵琶楽協会副会長藤巻旭鴻氏は多年に亘る琵琶楽振興の功労者としてこのたび勲五等双光旭日章受賞の栄に浴された。誠に喜ばしいことで、藤巻氏の名誉は云うに及ばず全琵琶界のためにも嬉しい限りである。茲に双手をあげて御祝の言葉を贈る。

追而日本琵琶楽協会の主催でこの受賞祝賀会を十二月六日(日)午後一時東京新宿五



赤心流琵琶演奏大会

梅原旭 瀧

十一月三日(文化の日)静岡の森鶴翁先生主宰の赤心流琵琶大会に、京都から平井春嶺さん、田中敷水さん、植村寛水さん、それに私の四人が招待を受け、当日京都駅発九時二十一分の新幹線こだま号で出発しましたが、

昨夜来の雨も今朝は嘘のように晴れ、車中から雪を頂いた富士の霊峰を眺めながら二時間余りで静岡駅に着き、そのまま二台の車で会場に向いました。

赤心流では毎年春は吟詠大会、秋はこの日に琵琶大会を開催され今年は十四回目、数年来私達は欠かさず出演の末席を汚がしていますが、いつもの会場婦人会館が改築中のため今回は浅間神社赤鳥居前のプリンス会館魚磯二階の舞台付畳敷大広間が会場となり落ちついた雰囲気、聴衆は座布団に座り古典琵琶の妙味に浸っていました。

午前中は赤心会員や役員さん達の吟詠や免状授与などがあり、午後から琵琶演奏に移って、赤心会員四氏の熱演に続き来賓、相談役諸先生の間に伍して我々も拙技を披露し、最後に会主鶴翁先生の「潯陽江(下)」で終演となりましたが、関東・関西からの出演の方々は毎年殆んど同じ顔ぶれのため楽屋の空気も誠に和やかで、旧交を温ためながら談笑するのには楽しい限りでありました。

全演奏終了後関係者約七十人が一堂に会し、豪華な料理の膳部を前にして乾盃、色々隠し芸などが続出しましたが、私達は帰りの新幹線時間の関係上残念ながら中座して九時過ぎ帰京し、一年ぶりに楽しい一日を過ごすことが出来ました。(当日の演奏者と曲目別項御参照)。尚琵琶友高橋正雄さんが終日私たちと行動を共にされました。

新年特別号発行について

来たる一月一日発行の本紙は例年の通り新年特別号とし紙数を増して内容豊富な記事を満載、併せて年賀交礼号として貴名を掲載させて頂きたいと存じます。

堺開口神社八朔大祭に琵琶献奏

九月十二日(日)午前十一時同神社瑞祥閣にて大阪琵琶同好会協賛献奏。石童丸一多和、城山、島津、竜の口、小林旭、湊、広瀬中佐、矢野旭信、坂本竜馬、辻旭城、関ヶ原、作花旭友、姫百合の塔、石橋旭嶺、道成寺、田中敷水、浜松城、中島旭穂。外に詩吟、尺八、浪曲、剣舞、舞踊、奇術、歌謡曲など数番。

筑前琵琶橋会全国大会

十月四日(日)午前九時半広島中国新聞社大ホール、主催橋会、司会中国地区会。第十三回の催しで第一部「蓬萊山」外二十曲、第二部「北の庄」外十三曲。宗範山崎旭萃女史を始め、都根、名古屋、各務原、広島、東京、厚木、米子、箱根、岡崎、藤井寺、鳥取、小牧の各

地区選良延べ四十四名出演盛会であつた。尚翌五日は総会に続き懇親会で遠隔地会員相互の旧交をあたためた。

京都琵琶協会の月例会

(1)十月十一日(日)午後二時本部平井会長宅。

馬場鴨水、林旭朗、西川磯水、楊嶽水、楊光子、梅原旭瀧、山岡旭清、安住旭康、桜井旭富、水内煥水、平井春嶺、高橋正雄、福島やよい、植村真水の各氏出席。無常一山岡父乃木將軍一西川一植村一楊光子一秋風五文原一楊真如の月一植村一文天祥一平井、以上研修演奏のあと芸談雑談に花を咲かせながら夕食を共にして七時散会した。

(2)十一月一日(日)同右。平井春嶺、木下皇水、桜井旭富、矢吹旭美津、山岡旭清、梅原旭瀧、田中敷水、楊嶽水、林旭朗、馬場鴨水、賛助会員高橋正雄、同楊光子、同福島弥生の各氏出席。桜井一楊光子一井伊大老一楊舟弁慶一田中一白虎隊一馬場一敦盛一木下一本能寺一平井、以上研修演奏のあと、①十二月月例会は楊嶽水氏宅にて忘年会を兼ねて開催、②日誌協関西支部主催十二月山陰方面に懇親旅行の件などその他を協議、夕食の後散会した。

日本芸術琵琶普会例会

十月十日(日)屋東京文京区大塚の貸席京屋で開催。湖水乗切一内田隆章一白虎隊一白比稲子一物狂一鈴木好水一白虎隊一杉山富士代一鴨川の露一佐藤旭尚一詩吟二題一奈佐喜泉

薄陽江一金尾岳丈一仏御前一金森旭輝一詩吟二題一田中吟水一白虎隊一青木早水一橋大隊長一長谷川錦舟一末練西行一若宮旭登一舟弁慶一高田栄水一司会一杉山蛭雪。五時半散会。次回は十一月十五日同所にて開催予定。

京都伏見稲荷大社に琵琶献奏

十月十一日(日)昼一時拜殿にて大阪琵琶同好会協賛献奏。君ヶ代一同一赤垣源蔵一浜崎一吉野懐古一西尾一伏見の吹雪一米原旭智一湖水渡り一北見旭昇一菊水の旗一島津旭都一西郷隆盛一矢野旭信一岩壁の母一西村旭瑞一花の白虎隊一辻旭城一竜の口一小林旭滄一小督の局一石田旭扇一茨木一野々村旭心一大楠公一作花旭友一本能寺一石橋旭嶺一戦艦大和一田中敷水一三〇三高地一天津八千代。外に剣舞、扇舞等数番。当日は同神社秋季大祭で全国からの参詣者で賑わいせんざいの無料サ一ピスや重要文化財の茶席でお手前の接待があつた。

錦心流一水会静岡支部研修会

十月十八日(日)昼一時静岡中央公民館二階中ホール。国船一山崎一城山一溝口一石童丸一長谷川一紅葉狩一佐藤英水一青葉の笛一海野京水一本能寺一竹林詩水一川中島一杉山禅水一西郷隆盛一國府田謡水一坂崎出羽守一仁王沐水一霧の川中島一堀江強水一伊豆の御難一太田杯水一修善寺物語一村磯接水。

青壮年琵琶演奏会

十月十八日(日)正午東京港区赤坂公会堂、主催尾崎三郎氏。白虎隊一吉永松陽一敦盛一田中光水一養老一吾妻江雪一川中島一森中志水一木將軍一金森静江一鉢の木一原田曲水一乃木將軍一輕部岳瑞一接待一高田栄水一娘みゆき一小原旭成一大楠公一押川旭葉一屋島の誉一座間煥水一湖水乗切一広瀬圭穂一異国の丘一杉山旗水。外に吟詠七題。

筑前琵琶旭会全国大会

十月二十四、五両日(日)午前十時十五分東京千代田区大手町農協ホール、主催日本旭会、司会東都旭会。第五十一回全国大会で第一日は(第一部)お江戸日本橋の合奏を序奏に十八曲、(第二部)二十曲。第二日は(第一部)十八曲、(第二部)十九曲、計七十五曲(内、華道茶道を始め立方付十四曲、琴尺八付数曲)を鹿兒島、金沢、長崎、神戸、大津、東京、神港、筑前、東都、備後、肥後、筑紫、大阪、大分、小倉、明石、横浜、防長、熊本、福岡、浪速、大阪中央、相生、姫路、桜井、東大阪、岐阜、岡山、八代の各地二十六旭会の精鋭が妍を競い盛況を呈した。尚二十六日は総会、懇親会が開かれた。

阿部秋子琵琶演奏会

十月二十五日(日)午前十一時名古屋中小企業福祉会館、主催名古屋秋声会、後援琵琶芸術協会ほか。松浦、長谷川、山本三氏の昇伝披

露を兼ねた催しで、会歌錦秋譜一女流会員合奏一蓬萊山一山中一忠度一桑原紅静一月下の陣一若森紅葉一河内の宿一近藤紅貴、水野紅恵一青葉の笛一土山紅美一静一近藤紅鈴一重衡一田畑紅鈴一母常盤一鬼頭紅春一城山一白井紅仙一白虎隊一若森紅声一春秋譜一小沢堅良一羽衣一宮原紅霞一五條橋一(奥伝披露)山本秋香一竜の口一(皆伝披露)長谷川秋楓一川中島一(同)松浦秋翠一西郷隆盛一会主阿部秋子一小栗栖の露一會長前田秋声一(以下賛助出演)豊川挺身隊一名古屋糸井慈水一壇の浦一同前田絹水一巖流島一同丹野毓水一姫百合の塔一福井内田景水一新撰組一京都木下皇水一八甲田山の露一横須賀土橋虎水一湖水乗切一名古屋奥村慧水一粟津ヶ原一同西村旭一声。外に詩吟三題。

琵琶と詩吟・詩舞の会

十月二十五日(日)午前十一時西宮市立夙川公民館松下ホール、主催市教育委員会、主催西宮琵琶詩吟同好会、後援一水会神戸、大阪両支部。作詞家故松野紫雲氏の追悼を兼ね故人の作詞を主に演奏。河内の宿一楊光子一母常盤一高原柳水一あ、川中島一山下博水一扇の的一田中珠水一城山一村上湧水一小楠公の母一生島華水一大和櫻古一木一宮梅水一吉田秋水一別れの盃一田川蘭水一湖水乗切一瓜生瞳水一戦艦大和一田村魁水一政岡一滝沢花水一菊水の旗一反町紫水一日蓮誕生一川上起水一秋風五文原一楊嶽水一琵琶舞屋島懐古一三浦蓮水一立方二人一(以下來賓演奏)霸王と虞美人一大阪小川吟水一天目山一同中山鳳水一文天祥一京都平井春嶺一敵島の戦一彦根林田旭城一楊貴妃一会主三浦蓮水。外に詩舞三浦桜泉をはじめ詩吟詩舞三十一題。盛会。

琵琶吟全国大会

十月二十五日(日)午後零時半大阪東区本町津村別院ホール、主催大和流光椽会、後援山崎旭萃会、協賛舞踊天津扇三社中、舞道端緒大次郎、琴菊桜城江、尺八村田藤山(有料)。今回ソニーより山崎光椽作品集レコード発売を記念に開催された会で、家元山崎光椽一琵琶吟舞踊西郷南州(琴、尺八、立方入)をはじめ矢吹光蓮、菅光華、押川光葉の琵琶吟舞踊風林火山(箏、尺八、立方入)など独奏合奏二十八曲を展開し盛況を呈した。

日本琵琶悠絃会月例会

十月二十五日(日)正午東京中野区大和町地域センターに於て番詠吟修会と共同開催、二時迄番詠の詩吟のあと門琵琶弾奏一八束一峰一詩吟千島一天羽岳水一淀君一木村番詠一別れの盃一金尾岳丈一城山一中村洲心一川中島一橋本草水一竜の口一富士岳峰一白虎隊一長谷川錦舟一大楠公一杉山旗水一秋海棠一青木早水一鉢の木一輕部岳瑞、以上研修演奏を終り五時半散会した。

第十四回赤心流琵琶大会

十一月三日(文化の日)午前十時静岡浅間神社赤鳥居前プリンス会館魚橋、主催赤心流武蔵野一松本鶴鈴一桜狩一荻野鶴洋一城山一舟弁慶一紅葉狩一市川鶴峰一(以下來賓)舟弁慶一神戸中敷水一大物の浦一東京若宮旭登一唐人お吉一横須賀石井桑水一由比ヶ浜風一京都梅原旭瀧一真如の月一同植村真水一本能寺一同平井春嶺一西郷隆盛一横谷中谷襄水一(以下相談役)枯柳一東京望月啞江一蒙古来一浜松小野鶴彦一重衡一静岡小川野水一薄陽江一静岡尾鶴城(会主)薄陽江一赤心流鶴翁。外に赤心会歌、門人、役員の吟

錦心流一水会全国大会

十一月七日(日)午前十時東京銀座ガスホール、主催一水会本部。本部役員を始め城北、杉並、城東、城西、中央、江北、静岡、前橋、横須賀、酒田、富山、三河、足利、豊橋、大坂、神戸、埼玉、新潟、名古屋、宇都宮、大和、秋田、金沢、高崎、岳南、福井、いわき、小田原、鶴岡、平塚、八相、札幌、川崎、弘前、甲府、勝沢、仙台、横浜、逗葉、武蔵野、埼玉の四十二支部から参加出演、四十三曲の演奏で盛会、翌八日は総会に続き懇親会。

筑前琵琶保存会の演奏会

十一月七日(日)正午博多駅前大博多ビル十二階ホール、後援県・市教育委員会ほか。第十二回の演奏会で盛会であった。黒田武士一會主嶺旭蝶、岡本義信一文福茶釜一内藤里美、内藤義隆一寿賀一阿部あゆみ、富規世子、富啓子一休さん一富康平、飯田宗徳一巖流島一富教代、飯田真由子一戦艦大和一阪部ゆかり、岡村由紀子一常陸丸一旭嶺外七人一大合奏博多夜船、博多カッチリ一洲野恭生外二十七人一特別出演一博多那の津会社中一純情無法松一梶野洋子一旭蝶一坂敷山一鐘の浦一梶野優子一本能寺一賛助出演東京藤内鶴孔一元寇の乱一青山旭子、テアトルハカタ。

中村旭園五十周年記念演奏会

十一月八日(日)正午福岡市立少年文化会館、福岡旭会、後援県、市教育委員会ほか。(第一部)七福神一十五名一浦島太郎一中村西見一絃旭園、旭幸一華の恵み一吉田旭幸。絃旭園外三名一若き敦盛一東旭秀。絃旭園外